

学習活動

教科別の指導 国語「文字で書いて表現しよう」

新聞作り(インタビュー、メモ含む)、助詞の学習、手紙の書き方など

活用の目的

○助詞の学習においてフラッシュ型教材*を使うことで、集中して学習に取り組み、効率よく定着できるようにする。

※フラッシュ型教材:課題を次々と提示するフラッシュカードを、プレゼンテーションソフトで作成・提示するデジタル教材 参考サイト「eTeachers」<http://eteachers.jp/>

活用の実際と工夫

○フラッシュ型教材サイト「eTeachers」に公開されている PowerPoint 教材を iPad 用のプレゼンアプリ「Keynote」に変換し、修正を加えたものをテレビに映す。

○授業の導入にクイズ形式で取り組むことで、その後の学習でも集中力が高まるようにする。



公園□

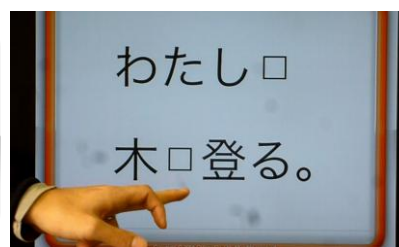
バッタ□

つかまえる。

公園で

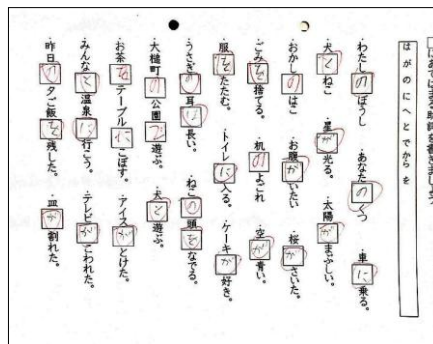
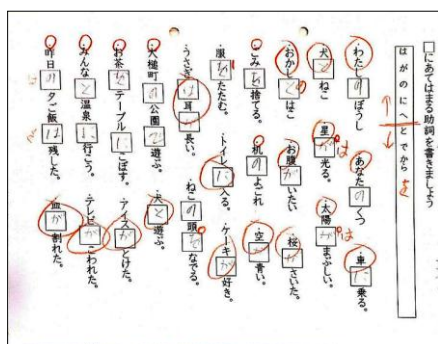
バッタを

つかまえる。



iOS 用のアプリケーション「Keynote」

フラッシュ型教材ダウンロードサイト「eTeachers」から、PowerPoint 教材をダウンロードして Keynote に保存した。縦書きが横書きになり、フォント等も修正しなければならないが、アナログ教材と比較して準備が容易である。



ある生徒の助詞の学習プリント。正答は11月に19/35だったが、フラッシュ型教材等で学習を行い、12月には25/35となった。

活用の効果 ○効果 ●課題

○プリント教材および毎日の日記帳で、助詞の使い方に改善が見られた。

○授業の導入で学習したことで、その後のプリント学習でも正答が増えた。

○教材の準備が容易で、類似問題をいくつも作ることができた。

●PowerPoint では縦書きで表示されていたが、Keynote では全て横書きに変更されてしまう。